

令和7年度 学校自己評価【教職員】

34名

		R6平均	平均	4	3	2	1
1	本校の特色と取組を積極的に広報するために、ホームページや学年通信等を通じて情報発信を行う。	2.9	3.1	9	19	5	1
2	前年度の学校評価結果や学校評議員会、育友会等で得た意見・提言を参考にし、きめ細かな学校運営を行う。	2.7	2.8	3	21	9	1
3	総合的な探究の時間をはじめ、様々な場面で地域や関係諸機関との連携を図り、生徒の社会参画意識を向上させる。		3.1	11	17	6	0
4	外部機関との連絡調整を行う体制を確立し、継続した連携を通して信頼関係を構築する。		3.1	10	18	6	0
5	年度当初に生徒指導方針を確認し、全職員で生徒指導に取り組む体制を確立する。	2.5	2.7	4	21	7	2
6	心の通い合う生活指導を目的として定め、家庭と密接な連携を図りながら生徒指導を行う。	3.1	3.2	12	18	4	0
7	個人面談の実施やキャンパスカウンセラーによる教育相談を活用し、生徒の内面理解を図る指導法を確立し展開する。	3.3	3.4	16	14	4	0
8	3年間を見据えた進路計画を確立し、その計画を基に全職員による進路指導体制を充実させる。	2.7	2.7	3	19	11	1
9	生徒の進路相談に適切に対応するため、個人面談等を充実させる。	3.2	3.2	11	19	3	1
10	生徒の将来の進路を見据えた進路HR(類型選択、志望理由書等)を充実させる。また、生徒の職業観・勤労観を育成し、進路意識を向上させるため外部講師(ベネッセ、東進、河合塾、大学教授、県看護協会)による進路講演会等を企画・実施する。	2.9	3.2	9	24	0	1
11	HRや学年集会、「総合的な探究の時間」などで、生徒に自らの在り方、生き方を主体的に考えさせ、進路を実現するための能力を身につけさせる。	2.9	3.1	10	19	4	1
12	授業公開や研究授業の実施、シラバスの作成等による魅力ある授業づくりに取り組む体制を整え、全教職員が指導力向上に努める。	2.8	2.9	5	21	8	0
13	危機管理・進路・教務・生徒指導・保健関係等の校内職員研修を計画的に実施し、教職員の資質・能力を高める。	3.0	3.2	14	14	6	0
14	職員が保護者や地域住民の要望や意見を把握し、社会の変化や地域の要望に対応できるよう能力を高める。	2.8	2.8	3	21	10	0
15	「危機管理マニュアル」を作成し、役割分担の確認、事前の安全管理の徹底及び危機管理体制を確立する。	3.0	3.1	11	19	3	1
16	地域・関係機関との連携を密にし、危機管理体制及び協力関係を築く。	3.1	2.9	6	20	7	1
17	教室をはじめ体育館、グラウンド等各施設を整備し、安全性の確保と学習環境の整備をする。	2.7	3.0	6	23	4	1
18	教育目標の具現化のため、各部・学年の重点目標と具体的な取組を計画的に推進する。	2.7	2.9	4	23	6	1
19	全職員が個々の分掌を意欲的に責任を持って遂行することで、「人づくり」に一丸となった教職員体制をつくる。	2.5	2.7	3	19	12	0

20	保護者に学校行事への参加や授業参観を呼びかけ、学校の取組を理解していただくとともに支援と協力体制を確立する。	3.1	2.9	5	21	7	1
21	オープンハイスクール出席者の満足度を高め、全教員の協力体制のもと、魅力発信を図る。		3.4	17	15	1	1
22	公開授業週間の実施や授業評価をし、指導技術の向上を図る。	2.7	2.9	5	23	4	2
23	ICTを活用した効果的な指導方法の研究とその実践を行う。	2.9	3.0	7	20	6	1
24	生徒の実態に応じた指導を行うために、教員どうしの情報交換や教材共有を適切に行う。	2.7	3.1	7	24	3	0
25	進路指導と連携した「総合的な探究の時間」の実践について、内容の充実を図り、生徒の主体的に学ぶ意欲を向上させる。		2.9	6	19	8	1
26	生徒の多様化が進む中、習熟度別授業や少人数指導を積極的に導入し、基礎基本の確実な定着と学力向上を図る。	3.0	3.1	9	19	6	0
27	シラバスや年間指導計画を作成し、生徒が自ら、関心・興味を持って、授業選択が出来るようにする。	3.0	2.8	3	21	10	0
28	生徒会主催の行事を実施し、計画・立案・実行を責任をもって行わせ、リーダーシップの養成と生徒の自主・自律の精神を育む。	3.0	3.2	11	18	5	0
29	3年間を通して計画的に人権LHRを実施する。また、特別支援学校との連携事業を実施するなど、生徒の人権意識を高揚させるために適切な人権教育を行う。	2.9	3.1	11	18	4	1
30	福祉施設との交流や奉仕活動を通して、生徒の福祉に対する関心を高める。また、日常の清掃活動や地域の清掃活動を通して環境教育を行う。	2.8	2.8	4	21	8	1
31	平成27年度に導入したヒューマンサイエンス類型について、生じた課題を精査し、充実・発展させる。	2.3	2.8	7	15	10	2
32	地域の中学校と定期的に連絡会を実施し、情報交換や連携を深める。学習活動や部活動での交流を図る。	2.8	2.7	3	18	12	1
33	「福祉・ボランティア活動」の実践と地域環境整備の実践(例:校外清掃、ジュニアテニス教室、ふれあい育児体験、地域学「宝塚学」)を通して、地域に本校の取組みを積極的にアピールする。	3.1	3.3	14	16	3	1
34	国際交流活動を積極的に推進し、生徒の国際的視野の拡大を図る。	2.7	2.7	3	19	10	2